

皮膚科

1 研修責任者 神人正寿

2 一般目標

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

本プログラムは和歌山県立医科大学医学部皮膚科を研修基幹施設として、日本赤十字社和歌山医療センター皮膚科、和歌山労災病院皮膚科、公立那賀病院皮膚科、橋本市民病院皮膚科、海南医療センター皮膚科、鹿児島医療センターを研修連携施設として、また国保野上厚生総合病院などを研修準連携施設とする研修施設群を統括する研修プログラムである。なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。

3 行動目標

- (1) 皮膚疾患の臨床的・病理組織学的特徴の正確かつ詳細な記載
- (2) 適切な鑑別診断と検査計画の立案
- (3) 外用剤の使用法、消毒、処置の習熟
- (4) アレルギー疾患・膠原病などの診断から治療決定までのプロセスの習得
- (5) 皮膚外科、美容皮膚科、熱傷・褥瘡処置の基本的手技・知識の取得

以下の疾患群、分野を経験目標とする

- ・アレルギー(アトピー、蕁麻疹、薬疹など)
- ・乾癬(尋常性乾癬、掌跖膿疱症など)
- ・水疱症(尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡など)
- ・膠原病(強皮症、エリテマトーデスなど)
- ・皮膚感染症(白癬、ヘルペスなど)
- ・皮膚腫瘍(悪性黒色腫、悪性リンパ腫など)
- ・脱毛症(円形脱毛症、男性型脱毛など)
- ・遺伝性皮膚疾患(角化症、魚鱗癬など)
- ・母斑症(神経線維腫、結節性硬化症など)
- ・血管炎
- ・白斑
- ・皮膚外科
- ・熱傷
- ・光線皮膚科
- ・美容皮膚科
- ・皮膚病理

4 方略

- (1) 一般外来の処置、問診、診察を指導医とともに行う。
- (2) 入院患者の担当医として、指導医とともに患者を受け持つとともに、各種診断に対する検査や治療法を経験すると同時に症例検討会でプレゼンテーションを実施する。
- (3) 指導医とともに皮膚疾患患者を受け持ち、上級医の指導のもと、手術や化学療法、免疫抑制剤を用いた治療を経験するとともに、皮膚生検や縫合、アレルギー検査などの皮膚科の基本的な手技を実施する。
- (4) 診療録記載、退院サマリー作成
研修医は患者診察後速やかに診療録を記載する。指導医・上級医はその内容を確認し、指導する。

5 週間スケジュール

1 週間のスケジュール							
		月	火	水	木	金	土/日
午前	9:00	外来 (予診・処置・陪席)	手術	外来 (予診・処置・陪席・往診)	外来 (予診・処置・陪席)	手術	
	12:00						
午後	13:00	外科回診 病棟	病棟 美容外来 膠原病科勉強会	病棟回診 褥瘡回診 形成カンファレンス	病棟 レーザー外来補助 病理カンファレンス	病棟	
	17:00						
	19:00						

6 評価方法

PG-EPOC を用いて評価する。評価者は、診療科長・医局長・病棟医長・皮膚科病棟看護師長などとする。

(1) 自己評価

研修手帳、教育的行事の参加記録に記録する。EPOC2 に自己評価を行う。

(2) 指導医による評価

症例カンファレンスなどにおいて適宜皮膚疾患についての質問を行い、知識の習得状況の評価する。技能に関しては、指導医、上級医の立会いのもとで各種手技を実施し、習熟度を考慮した上で研修医単独で実施する機会を与え、技能の習得状況の評価する。診療録、病歴サマリーには EBM および、考察を含めた適切な記載ができているかも評価する。

(3) 看護師による評価

チーム医療の観点からコメディカルスタッフからの意見として、医師としてふさわしい態度の習得状況をふまえ、研修医を評価する。